

発 言 通 告 書

発言者氏名	南まさみ
発言の会議	平成30年 2月26日 本会議
発言の種類	質疑、一般質問、緊急質問、討論、その他
質疑等の方式	一括、一問一答
答弁を求める者	市長

【件名及び発言の要旨】

1 市長の思いと基本姿勢について

- (1) 横須賀復活の第一歩となる横須賀再興プランに込めた市長の思いを伺う。
- (2) 財政面が苦しい中で重点分野に予算を配分しているが、市長として初めて編成された予算案に対する自己評価はいかがか。
- (3) 税収の伸び悩みと社会保障費の増という状況が続く中で、今後の財政面でのかじ取りにどのような認識で臨むのか。

2 「歴史や文化を生かしたにぎわいの再興」について

(1) 三浦按針について

- ア 本市が中心となって署名活動を展開している大河ドラマの制作は、具体的に何年度の実現を目標としているのか。
- イ 大河ドラマ実現までの本市における具体的なプランはあるのか。
- ウ 逸見にある按針ゆかりの浄土寺や県立塚山公園の供養塔から市内に点在する歴史的遺産を浦賀道で結ぶルートミュージ

アムの構築も集客につながると思うが、市長の考えはいかがか。

(2) ヴェルニー公園のさらなる有効活用と谷戸再生について

ア 同公園において、観光客だけでなく、市民が横須賀の風を感じ、散歩し、景色を楽しみながらお茶を飲み、食事ができる等の工夫をすることで、さらなるにぎわいを呼び込むことに対する市長の考えを伺う。

イ ストリートミュージシャンや大道芸人に谷戸地域の住居を提供した上で、ライブ演奏やパフォーマンス、音楽やダンスのフェスティバル、さらに食のイベントなどを催すことにより、市民はもちろん観光客も楽しめる空間になると思うが、市長の考えを伺う。

(3) 観光バスを誘致できる施設について

ア 本市のバス駐車場が不足している問題は以前から指摘されているが、今後の観光立市の施策としてインフラの整備も含めてどのような方針で取り組まれるのか。

イ 個人旅行客の利便性を考えると、横浜方面からの観光客が容易に行き来できる仕組みづくりを運輸会社とともに模索すべきと思うが、市長の考えはいかがか。

(4) スポーツの振興と観光や交流人口の拡大を図るための施策について

ア 各種目の協会と協力して宿泊・弁当の手配、交通の段取り、土産の準備、大会後の移動や観光の手伝いなどに組織的な対応をし、より多くの大会の誘致と市内消費に貢献することを目的とした横須賀市スポーツコミッションを創設してはいかがか。

イ 学術会議などを誘致することで市内消費につなげるようなセールスを行うために、スポーツコミッションとコンベンションビューローをあわせた組織を創設してはいかがか。

ウ この取り組みは市長のスポーツや音楽によるまちづくりの方針に欠かせないものではないか。

(5) すかなごっその駐車場拡大とソレイユの丘の機能強化について

ア すかなごっその駐車場が狭いことで生じる近隣の渋滞を解消するとともに、集客の拡大を図るために、来年度どのような取り組みを考えているのか。

イ オートキャンプ場が開設され、さらに周辺土地の買い取りを計画していることは、ソレイユの丘の機能強化に取り組む時期が来ていると捉えている。西地区の魅力向上を加速させるため、本市で最も集客力のあるすかなごっそとソレイユの丘が有効に絡み合い、さらなる相乗効果を生むような配置の検討と規模の確保に取り組むべきではないか。

ウ ソレイユの丘の指定管理者には、経営方針や運営方針として、すかなごっそも含めて効率的かつ生産性が向上するような取り組みを求めるべきではないか。

(6) 浦賀奉行所及び住友重機械工業（浦賀ドック）跡地について

ア 浦賀奉行所の跡地について、地域住民からは防災公園としての利用を求める要望があるが、市長はどのような計画を立てているのか。

イ 浦賀駅前の東西に広がる住友重機械工業（浦賀ドック）の跡地について、所有者に対して今後どのような申し入れをしているのか。

(7) 浦賀港の底質改善について

船舶の製造基地であった浦賀港は、海底に堆積した塗装材料を除去する必要があると思われる。水辺の再生は、マリンレジャー・マリンスポーツの充実や海を感じるイベントや展示等につながり、市長の掲げる海洋都市構想にも合致するのではないか。

3 「子育て・教育環境の再興」について

(1) 幼稚園・保育園の無償化について

ア 幼稚園・保育園費用の無償化には多額の財源が必要となるが、10年先の社会を見据えたときにこの無償化の意義をどのように考えているのか。

イ 国においても段階的な無償化が検討されている中で、今後どのような形で本市独自の無償化を進めていくのか。

(2) 認定こども園計画の今後の展開について

(仮称) 中央こども園の設置に向けて、どのような議論を行い、どのような設計構想で臨むのか。

(3) 待機児童対策について

ア 幼児教育の無償化により保育園の利用希望者がふえ、待機児童としてカウントすべき対象者もふえていく状況の中で、これまで以上に保育園の受入定員の拡充を進めていく必要があるのではないか。

イ 今後の本市における待機児童解消に対する見通しを伺う。

(4) 学力向上と子どもの生活習慣の改善について

体力向上、生活習慣の改善及び良好な睡眠が学力向上につながるという一連の流れを本市の本質的な取り組みの柱とすべきではないか。

(5) プログラミング教育について

ア 2020年から小学校で導入されるプログラミング教育は、指導者不足により、実際のプログラムではなく、考え方を教えるものとなっている。子どもたちがプログラミングを体験して習得する機会を提供する方策として具体的に取り組む必要があるのではないか。

イ キャリア教育の一環として中学校2年生が行う職場体験において、DeNAなどのIT企業やYRP内の企業を訪問する取り組みは貴重な社会人体験になるのではないか。

(6) 青少年団体の活動支援とジュニアリーダー育成について

ア 市内にある青少年団体の活動に対する市長の所見を伺う。

イ 青少年団体に対し、今後、どのような支援を考えているか。

ウ 若いリーダーを育てるだけでなく、地域において彼らが活躍できるような環境整備にも取り組むべきではないか。

4 「地域で支え合う福祉のまちの再興」について

(1) 地域福祉計画の策定について

「誰も一人にさせないまち」の実現のために策定する地域福祉計画は、将来を見据えてどのような内容とするのか。

(2) 市立病院（市民病院・うわまち病院）の将来像について

ア 市立病院とその他の医療機関がそれぞれの役割を担うことで三浦半島全体の医療体制が整えられていることから、今後も市立2病院体制は欠かせないと思うが、市長の考えはいかがか。

イ 市民病院小児科の入院再開について、市長の所見を伺う。

ウ うわまち病院の建てかえ場所について、市長の所見を伺う。

(3) がん対策について

がんに対する知識を深め、生活習慣改善や検診受診率の向上を図り、さらに患者の支援を含めた総合的ながん対策を市民とともに推進するなど、がん克服に向けた総合的な取り組みが必要と考えるが、市長の所見を伺う。

(4) 終活への協力体制について

ア エンディングプラン・サポート事業で問題としている「引き取り手のない御遺骨」とは、身元がわからない無縁の方と身元はわかるが引き取り手のない方のどちらがふえているのか、現在の状況を伺う。

イ 同事業に登録されている方は、現在何人いるのか。

ウ 同事業は、今後、所得や資産の多寡にかかわらず、そして民業を圧迫しない新たな形に発展させる必要があるのではないか。

(5) 最後まで住みなれた地域で暮らすことのできる地域づくりについて

ア 在宅死亡者のうち、みとりと言える数を把握されているか。

イ 核家族化が進んだ我が国では、家族がみとりの担い手となる在宅みとりは、介護離職などの問題により必ずしも幸せなみと

りという結果にはならないのではないかと。

(6) 今後の障害相談支援体制について

ア 今後の福祉分野の相談体制は、高齢福祉・児童福祉・母子福祉などを個別に行うのではなく、障害福祉を含めて包括的に検討する必要があるのではないかと。

イ 障害者の「親亡き後」問題に対する具体的な施策について、市長の考えを伺う。

(7) バリアフリー化の推進について

ア 「誰も一人にさせないまち」を目指すに当たり、心のバリアフリー化の啓発をどのように進めていくのか。

イ バリアフリーの手本であるべき総合福祉会館において改善すべき点として利用者からどのような要望が寄せられ、それに対してどのように対応していくのか。

(8) 認知症介護予防事業について

認知症サポーター養成事業や介護予防普及啓発事業でユマニチュードの啓発活動を取り入れるべきではないかと。

5 「経済・産業の再興」について

(1) 市内経済の活性化について

市長と市内経済界の代表が本音で本市の経済や産業の方向性について議論できるような常設の場を設置することにより、今年度進められる中小企業アドバイザーネットワークをより効果的なものにできるのではないかと。

(2) 中小企業の経営支援について

静岡県富士市の産業支援センターを視察し、企業を再生するようなコンサルティングの必要性を感じている。本市においても、中小企業を今まで以上に支援する仕組みづくりが必要ではないかと。

(3) 新たな産業の創出について

ア 企業誘致に対して、今後、どのような考え方と方針で進めていくのか。

イ YRPで研究・開発されている通信技術や情報産業を活用し、市内に新たな産業を創出していくことが本市の発展に必要と考えるが、市長はどのような展望をお持ちか。

ウ 将来のビジネスチャンスにつながるような産業を積極的にYRPに集積していく必要があるのではないかと考えるか。

(4) 港湾行政のあり方について

ア 市長の考える「国際物流特区を目指した経済振興」とする港湾行政とはどのようなものか。

イ 実際に、本市の港湾をどのように運用していくのか。

ウ 今後、厳しさを増すと思われる港湾間競争に勝ち残るために、どのような努力が必要だと考えるか。

エ 大型化する自動車専用運搬船に対応するための施設の改良が必要と考えるが、どのような対策を行っていくのか。

オ 完成自動車輸出量の減少分を補うための新たな貨物を検討する必要があると考えるが、どのような戦略を立てているのか。

(5) 久里浜港の拡充の必要性について

ア 同港と宮崎県日向市の細島港を結ぶ航路の事業化に向けて、より精度の高い調査を進めるべきではないか。

イ 各種道路網の整備により本市の物流環境が大きく変わること久里浜港活用の絶好の機会と捉えるべきではないか。

(6) 長瀬岸壁改修の必要性について

各種道路網整備にかかる残土等の受け入れが予想される状況において、長瀬岸壁と久里浜埠頭でのすみ分けが必要と考える。老朽化と水深の問題を抱える長瀬岸壁の活用に向けて、今後どのように取り組んでいくのか。

(7) 農業の六次産業化への取り組みについて

三浦半島における農業生産に会社形態の進出を促すことで多

くの方の就労の機会を確保し、安定した生活が可能となることを踏まえると、市の施策として農業法人の設立サポートと法人によるハウス栽培を推進すべきではないか。

(8) 閉鎖循環式陸上養殖事業の展開について

我が国の漁獲高が減少の一途をたどる中、閉鎖循環式の陸上養殖には生産コストが高いというデメリットを超えて多くのメリットが存在する。陸上養殖の展開は、雇用の創出も含めて本市の発展に貢献できるのではないか。

(9) 公共施設の木材利用について

国の方針に従い、本市でも比較的低層の公共施設の木造化や施設内の木質化を進めることで、市内事業者の受注機会を拡大するとともに低炭素社会の実現に取り組むべきではないか。

(10) 西海岸の開発について

ア 西地区の活性化には、その環境を生かした宿泊施設の誘致など、観光施設のさらなる充実が必要と考えるが、市長はどのような方策を持っているのか。

イ 市長の方策による地域・事業者への効果はどのようなものか。

(11) 横須賀中央エリアの再開発について

ア 市長みずからが市のリーダーとして、夢や希望を込めて中央エリアの将来像を語る必要があるではないか。

イ 国土交通省が進めるコンパクトシティ政策に対し、本市でも立地適正化計画を立案中と聞いているが、同計画ではどのような対応を考えているのか。

(12) 国道 357 号の延伸計画について

国道 357 号の南下延伸計画策定のために、今後、どのような取り組みを進めていくのか。

6 市役所業務の見直しについて

(1) 施設配置適正化について

ア 今後のファシリティマネジメントをどのように展開していくのか。

イ FM戦略プランや公共施設保全計画を具体的にどのように実行していくのか。

(2) マイナンバーカードの普及とその課題について

ア 平成30年度にどのくらいのマイナンバーカードを交付する予定なのか。

イ 平成32年3月までに同カードをどのくらい交付できるのか。

ウ マイナンバー制度による行政事務の効率化のために運用されている情報提供ネットワークシステムの本市における利用状況を伺う。

エ 番号法及び市が条例に定めた事務について、市民負担軽減の観点からの効果を伺う。

オ 今後のICT社会のさらなる進展を踏まえ、マイナンバーカードの普及に一層の努力をするべきではないか。

(3) 救急体制の強化について

ア 将来の出動件数を見据えた救急隊の増隊計画など、今後の救急対策の検討は行っているのか。

イ 救急対策は消防局だけでなく、部局を超えて全市的に取り組むべき問題ではないか。

ウ 昼夜を問わず、人の生死にかかわる緊張が続く活動を継続することは、肉体的疲労に加え、精神的なストレスも相当なものと思われる。このような実態を市長は把握しているのか。

エ 救急対策とあわせて、救急隊員の労務管理についても検討すべきではないか。

(4) 市が出資している法人のあり方について

自治体が出資する法人への関与及び経営の健全性の確保について、総務省は平成26年8月にガイドラインを策定しているが、それ以降も本市では取り組みがなされていない。今年の9月定

例議会での代表質問に対して、市長は「地方自治法の解釈を踏まえながら、関与できる仕組みや手法を考えていきたい」と答弁されているが、今後、どのように関与していくつもりなのか。

(5) よこすかポートマーケットの閉店について

ア 平成 30 年度末をもってよこすかポートマーケットが閉店するとの情報を耳にしているが、市長はこの事業の撤退とその理由を承知しているか。

イ 承知しているならば、ポートマーケット事業が十分な魅力を出し切れず、経営的にも厳しい状況に至った現状をどのように捉えているか。

ウ 突然の閉店により、運営者であるシティサポートよこすかが出店者に対して負うべき責任を市長はどう考えているのか。

エ 閉店による影響は市内外に大きいものと思われるが、今後の地産地消の推進についてどのように考えているのか。

(6) 水道事業と下水道事業の経営状況について

ア 水道料金は平成 6 年 4 月以降、24 年近く改定されていないが、現在の水道施設を次世代に良好な状態で引き継ぐために、今後の水道料金の改定について、どのように考えているのか。

イ 平成 26 年 10 月に改定した下水道使用料についても、今後、どのように考えているのか伺う。

(7) 家庭ごみ有料化の検討について

将来的なごみの減量化や受益者負担の適性化を考えた場合、家庭ごみの有料化に関して検討する必要があるのではないか。